

## 世界の人びとのための JICA 基金活用事業・業務完了報告書

### 1. 業務の概要：

|           |                                                        |
|-----------|--------------------------------------------------------|
| (1) 事業名   | 「バングラデシュにおける女子生徒の経済的および社会的自立を目的とした洋裁クラブ活性化プロジェクト」(通常枠) |
| (2) 実施団体名 | NPO 法人 YOU&ME ファミリー                                    |
| (3) 実施期間  | 2020 年 9 月 1 日～2021 年 8 月 31 日                         |
| (4) 実施国   | バングラデシュ                                                |
| (5) 活動地域  | ガジプール県 バゲルバザール シリアチャラ                                  |

#### (6) 活動概要

##### ①活動の背景：

YOU&ME インターナショナルスクールは、「貧しい子供たちにも良質の教育を」と、主に貧困層を対象に日本(当団体)と現地スタッフで運営する学校(幼稚園～10年生)である。設立当初 26 名だった生徒は現在 350 名以上になり、地域で重要な教育施設となっている。月謝は低額(800 円以下)に設定しつつも、経済的に貧しい生徒の受け入れを積極的に行っており、運営費の一部を日本側が担っている(約 55%)。当校の特徴は、教育分野を専門とする代表 玉木と、現地スタッフが構築した独自のカリキュラムである。それは試験での成績だけでなく、情操教育を重要視したものである。中でも 2012 年より開始したクラブ活動は、子どもたちの豊かな心を育むだけでなく、教員たちの指導モチベーション維持にも貢献している。一方、2018 年度卒業生 4 名のうち、女子生徒 1 名が本人の意思に反し貧困が理由で「児童婚」したことがきっかけとなり、女子生徒の就職につながる技術取得を目的とした施策が急務となった。縫製工場が多い同地域において、これまで「テイラークラブ」として活動してきた洋裁クラブの活動に 2019 年夏、電動ミシンが導入され、今後は就職につながる技術取得の場としての活動の充実が望まれていた。

##### ②活動の目標：

貧困層を中心とした女子生徒の経済的及び社会的自立が目標である。

本事業により洋裁クラブを活性化させることにより、同クラブに所属している女子生徒は縫製技術を取得することができる。縫製工場の多い同地域において、彼らは卒業後、この地域にて就職の可能性が増えるだけでなく、リーダークラスとして雇用されることが期待される。

## 2. 業務実施結果：

### (1) 実施した内容

#### 【実施内容①】担当教員の育成

洋裁クラブは、これまで学校内の担当教員（タスリマ氏）が担当してきた。本事業で特別講師（ファティマ氏）を雇用することにより、将来的にタスリマ氏が対象生徒の心身面ケアも含めて長期にわたり活動できるように育成した。タスリマ氏はこれまで足踏ミシンのみ操作できたが、本事業により電動ミシンの技術を取得し、ファティマ氏と共に生徒の指導にあたった。

#### 【実施内容②】特別講師の選定

本地域には服飾関連の事業者や縫製工場が多く、学校保護者にも複数の専門家がいる。その保護者の中からファティマ氏を雇用した。

#### 【実施内容③】クラブ活動の実施

本校のクラブ活動は木曜日の午前に実施していたが、本事業である洋裁クラブは活動日を増やし、休日である金曜を除く週6日の午前10時半～12時半までを指導時間に設定し、トレーニングにあたった（授業時間に当たった場合は15～17時）。

#### 【実施内容④】作品づくり

特別講師、担当教員の指導のもと、企画から仕上げまで生徒たちに実施させた。

#### 【実施内容⑤】作品発表

コロナ禍のため日本との直接交流はできなかったが、校内での発表を3回行った。

（11月）スカーフ作製

（3月）ベッドカバー・枕カバー作製

（8月）民族衣装サロワカミユース作製

#### 【実施内容⑥】日本側で確認及びフィードバック

品質管理は現地中心に行ったが、遠隔により日本からの確認及びフィードバックを行った。

#### 【実施内容⑦】活動報告・広報活動

ホームページやフェイスブック、年2回発行のニューズレター、11月実施の会員の集い、その他活動報告会にて、積極的に本事業の進捗状況と重要性を日本国内で説明し、理解を求めた。

## **（２）実施成果：**

コロナ感染拡大により、本事業実施時期には、バングラデシュ全土の学校に対し休校措置が取られ、残念ながら本校も休校の状態となった。しかし幸いにも、本事業は上級学年女子を対象とした少規模の活動であったため、コロナ感染対策をしながら活動を継続することができた。

特別講師ファティマ氏をスムーズに選定し、担当教師タスリマ氏と共に精力的に生徒の指導にあたることができた。ファティマ氏は学校生徒の保護者であるので学校内部事情にも詳しく、大変協力的で助けられた。またタスリマ氏も、それまでは足踏ミシンしか扱うことができなかったが、本人も熱心に技術取得に励み、電動ミシンを扱うことができるようになった。この二人の指導者がチームワーク良く指導に当たってくれたが、タスリマ氏は技術も取得し、良い指導者に成長してきている。これにより、将来的には特別講師がいなくても本事業が継続することが可能になるだろう。

品質管理は現地中心に行われたが、日本からのフィードバックは、将来的に学校近隣商店にて作品を販売することを見据えて指導した。生徒は積極的に参加し、身の回りで使える実用的な作品を自ら考案できた。また作品に合った実用的な布地を使用し、デザインも購買意欲のわく実用的なものを心掛けた。今後は、出来上がりの外観、縫製、糸の張り具合など、販売レベルに到達するまで、引き続き指導を継続していきたい。

## **（３）得られた教訓など：**

バングラデシュは経済成長がめざましく、縫製産業で成り立っている国である。その縫製業を支える人材を育成すること、また学生の就職を支援することは、国の成長のためにも大変重要なことである。JICA バングラデシュ事務所では、コロナ感染拡大を受けて、医療従事者のために、輸入でなくバングラデシュ国内製造の医療従事者用ガウンを作製して贈与したそうだ。このことから、本事業はバングラデシュの国発展の寄与につながるものであると、再確認することができた。

## **（４）今後の活動・フォローアップの方針：**

本事業は、総指揮責任者のリナ・ワハブ、担当教師のタスリマ、特別講師のファティマを中心に指導にあたったが、指導者集団のチームワーク良く、指導にあたることができた。

将来的には、近隣商店で作品を販売し収益を上げていく方針である。次年度には、うちよ財団より助成を受けられることが決定し、本事業を継続しできる予定である。

### 3. その他(エピソード・感想・写真など)

#### (1) 活動中のエピソード・感想など

本事業は、将来の就職にもつながる技術取得ができることから、生徒たちは大変意欲的に取り組んだ。またバングラデシュの縫製業は、女性のみでなく男性にも従事者が多いことから、本校の男子生徒も大きな関心を寄せ、希望生徒が多い。本年度は女子のみを対象としたが、将来的には、男子にも技術取得の機会を与えることも視野に入りたい。

本事業では電動ミシンを導入した。生徒たちは初めて電動ミシンを扱ったので、慣れるのに時間がかかったが、バングラデシュの縫製工場等では現在 電動ミシンが主流なので、この技術習得は必須である。生徒もそれを承知しているので、苦勞しながらも一生懸命に電動ミシンに取り組んでいた。また指導教師のタスリマ氏も、同様に電動ミシン技術を取得できたのは、よかった。

#### (2) 活動の写真



開講式



ファティマ氏、タスリマ氏



指導するファティマ氏



トレーニングする生徒たち



トレーニングする生徒たち



自作の  
サロワカミューズ

### （３）JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

本 JICA 基金活用事業を受託いただけて、団体の大きな成長につながったことを感謝する。

これまでも助成事業を受託実施した経験はあるが、他の助成事業では、実施年度内で 1～2 回の報告、すなわち最後に最終報告書、または中間に中間報告書の提出であった。しかし本 JICA 事業では、四半期に分けて細かく報告したおかげで、その度に事業の進捗状況を振り返り、自己反省の機会を多くいただけた。

次に、バングラデシュでも日本でも有数の主力国際協力機関である JICA より事業を受託できたことは、団体としての信頼性につながり、多くの人が本事業に大きな関心を持ってくれ、団体の信頼度が増した。またバングラデシュ学校スタッフは、JICA 受託である本事業に高い誇りを持ち、指導にあたることができた。

また、本事業では他助成と違い「間接費」があるが、領収書の提出を必要としないものであり、使い勝手がよかった。電動ミシンの使用には電気代金が発生するのでその使用に充てたり、また現地換金レートの変動の費用微調整などに使用させていただいたことが、ありがたかった。

最後に、将来は JICA 草の根事業にチャレンジしたいと考える。そのための助走として、今回の JICA 基金活用事業受託は、JICA の目指す方向性を知り、文書提出や打合簿交換など良い経験もでき、様々な面で学ぶことが多かった。団体として、将来へのステップとしたい。ここまでの 1 年間の JICA からのご指導に、心より感謝する。